

えんがわ

第77号

2013年8月発行

発行元
衣笠病院グループ
横須賀市小矢部
2-23-1
Tel 046-852-1182

愛犬ラン

ランは新潟生まれのミニチュア・シュナウザーのメスで8才、人間でいえば48歳の中年です。彼女の生活は単純で、たいていは穏やかな毎日です。一日の生活は起床に始まり、散歩、食事、昼寝、散歩、食事、就寝です。散歩の途中でトイレをすませます。また、散歩は仲間の犬と挨拶する機会でもあります。私の帰宅時には玄関で迎えてくれますが、冬の寒い時には炬燵にいたので少し遅れることもあります。私の機嫌が悪いと近づかず、様子を見ています。夕食後には妻の膝の上で甘えています。私とオモチャで遊ぶこともあ

ります。彼女は自分の生活に特に不満をもっているようには見えません。ランは私たち家族と共に8年間生きてきました。それぞれの人生の転機の時、病気に罹った時、大震災の時も。どんな時でもランはいつもと同じように私たちのそばにいてすべてを受け入れています。昔々、ある人が言っています。「犬は僕より立派だな。犬にだって愛はある。その上、犬は人を裁くことをしない。」



健康管理センター所長
原 雅文

えんがわ在宅 ひとくちメモ

快適な在宅医療

実現のために

在宅医療機器と聞いて皆さんはどんなものを想像するでしょうか。在宅酸素機器や人工呼吸器・輸液ポンプなど多数の種類があります。どの医療機器も患者さんが在宅で快適にお過ごしいただくために考えられています。今回は在宅酸素について書きます。慢性呼吸不全・肺高血圧症、心不全の患者さんに対して、家中では据置形の酸素濃縮装置、外出時には携帯用酸素ボンベを使用します。料金は1割負担の方で月に約八千円、3割で約二万三千円です。身体を動かすときに酸素不足があったり、苦しむのが嫌で歩かなくなった

りすると、自宅で快適に生活することが困難です。在宅酸素療法は人生の終末期に自宅での生活をより快適にするためにも使われますが、身体を動かし長生きするためにも使われる治療です。多少不便もありますが、息切れとうまくつきあい、もちろんこれまでどおり生活、仕事や旅行、お出かけしましょう。詳しくは担当医にお聞き下さい。料金の事なら医事課までどうぞ！

法人事務局 総務課主任
宮崎 哲平

先日、初めて大阪へ行きました。目的はユニバーサル・スタジオジャパンというテーマパーク。猛暑日でしたが水を使ったエンターテイメントが多く、着ていた洋服がびっしりになるほどで、涼しく感じられました。